

「まち」と「交通」を未来志向でアップデート ～4者連携で北九州モノレール沿線のまちづくりを始動！～

1. 連携協定の目的

北九州市と独立行政法人都市再生機構九州支社、北九州高速鉄道株式会社、西鉄バス北九州株式会社は、未来を見据えたまちづくりを目指し、北九州モノレール沿線のまちづくりに関しての連携協定を締結しました。

北九州モノレール沿線では、大規模住宅団地の整備や、土地区画整理事業による宅地整備など、モノレールを主軸としたまちづくりを推進してきました。中でも、徳力公団前駅周辺は、駅近くに大規模団地が立地し人口が集積していることに加え、モノレールと路線バスが交わる交通結節点であることから、生活機能・交通機能ともに高いポテンシャルを有する地域です。

また、近年では若者の車離れが進み、共働き世帯が一般化するなど、人々のライフスタイルは大きく変化し、暮らす場所として生活と交通双方の利便性を重視する傾向が一層強まっています。

今回の協定締結により、4者が連携・協力して、徳力公団前駅周辺での新たな機能の集積、公共交通の再構築に取り組み、「まち」と「交通」を未来志向でアップデートしていくことで、次の世代に選ばれる持続可能なまちづくりを推進してまいります。

2. 連携協定の内容

徳力公団前駅周辺地域を対象に、以下の事項について、4者で連携・協力しながら検討を進める。

- (1) 日常生活を支える高次な都市機能の集積
- (2) 持続可能な公共交通体系の実現に向けたネットワークの再編
- (3) 多様な交通サービスを快適に利用できる交通結節機能の強化
- (4) UR賃貸住宅ストック活用・再生ビジョンに基づくストック再生の推進その他まちづくり関連等の取組



左から、北九州高速鉄道株式会社代表取締役社長
独立行政法人都市再生機構九州支社長
北九州市副市長
西鉄バス北九州株式会社代表取締役社長

上田 浩
水野 克彦
片山 憲一
吉田 透

3. 参考

■ 北九州市

北九州市は、これまで「つながりと情熱と技術」で幾多の困難を乗り越え、その先にある「一步先の価値観」を体現してきました。

少子高齢化・人口減少などの社会課題に直面する中でも、多様な関係者と連携・協働しながら、充実した都市インフラなど北九州市の強みを生かし、挑戦し、克服していくことにより、市民が幸せを感じ、誇りを持ち続けることができる、新たな「一步先の価値観」を体現するまちであり続けます。

■ 独立行政法人都市再生機構

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>

■ 北九州高速鉄道株式会社

北九州モノレールは、わが国初の都市モノレールとして昭和 60 年 1 月 9 日に開業し、今年 1 月に開業 40 周年を迎えることができました。小倉から企救丘までの 8.8 km を片道 19 分で結び、北九州市民の足として「安全・正確・快適」な運行を続けています。これからも公共交通機関としての使命、役割を果たし、地域とともに持続的に発展するよう取り組んでまいります。

■ 西鉄バス北九州株式会社

西鉄バス北九州は、北九州都市圏全域を運行する「生活の足」としてバス事業を運営し、地域の発展や、豊かな暮らしを支え続けています。「お客さまの安全・安心」を礎としながら、弛まぬ変革や挑戦を実践する中で、より地域とともに歩み、ともに発展する、乗合バス事業の実現を目指しております。

これからも、私たちの根幹である「安全の確保」を最優先としながら、強い情熱をもって、持続可能な公共交通の実現に向け、チャレンジを続けてまいります。

<https://nishitetsu-ktq.jp/>

【問合わせ先】

<北九州市>

都市戦略局 都市再生企画課

平野（課長）、赤尾（係長） 電話：093-582-2502

<独立行政法人都市再生機構九州支社>

総務部 総務・法務課

飯塚（担当課長）、田上 電話：092-722-1004

<北九州高速鉄道株式会社>

総務部 営業課

愛甲（課長）、前田（係長） 電話：093-961-0103

<西鉄バス北九州株式会社>

西鉄お客様センター

電話：050-3616-2150

「まち」と「交通」を 未来志向 でアップデート

～4者連携で北九州モノレール沿線のまちづくりを始動！～



—— 社会課題を、超えていく。——



まちに、夢を描こう。

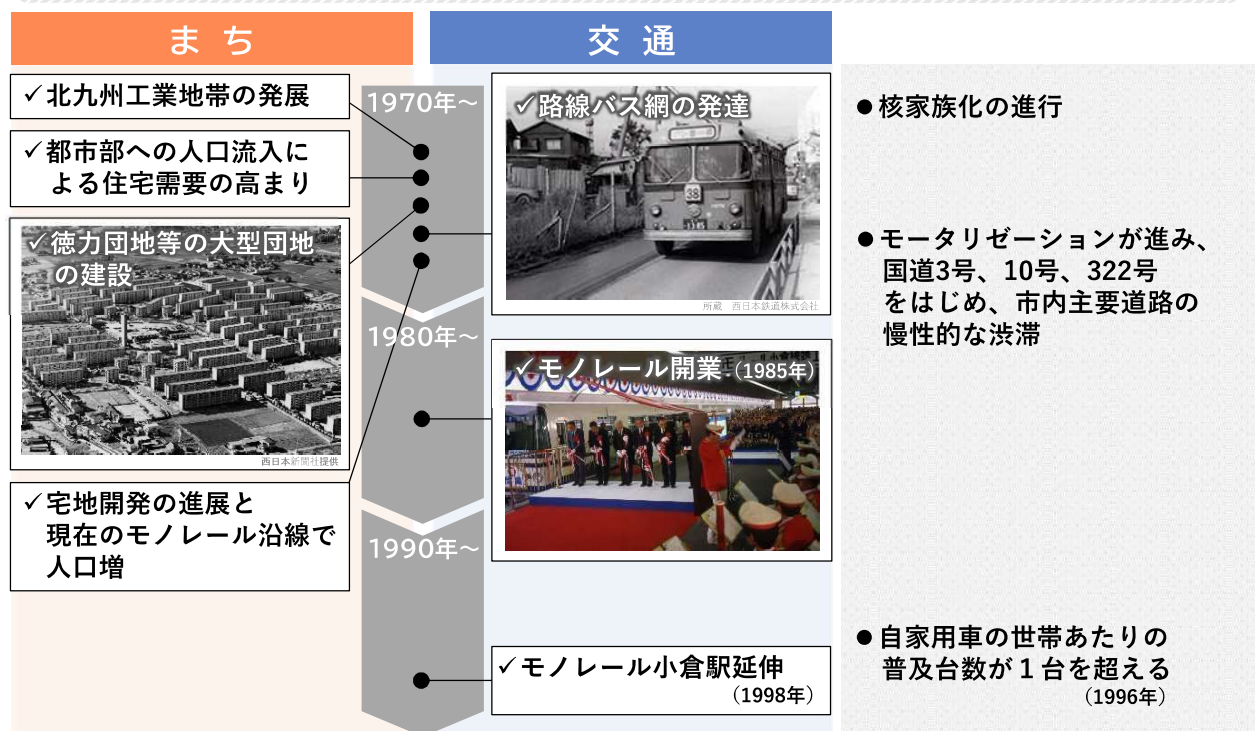


北九州市のシンボル モノレール



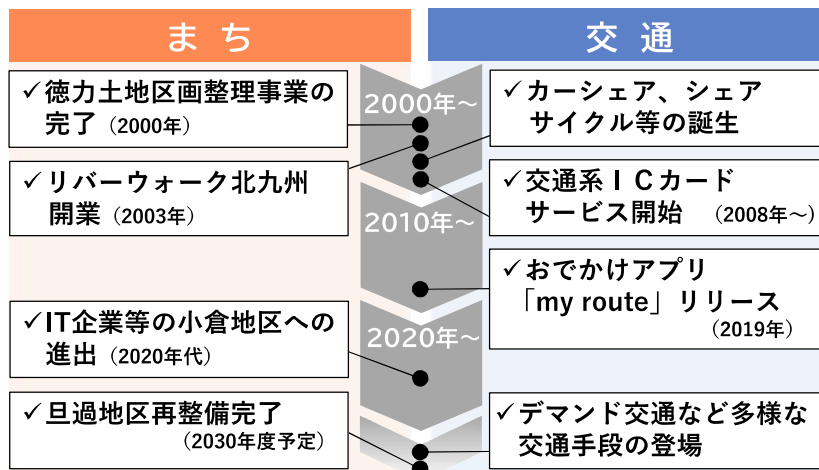
「福岡鉄道999」号出版記念写真展福岡県庁会館作品（奥村員琴絵撮影）

モノレール沿線の発展



本資料に掲載されている文章・画像・データ等の無断転載・複製を固く禁じます。

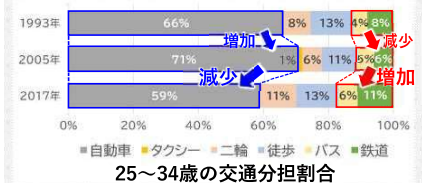
モノレール沿線の発展



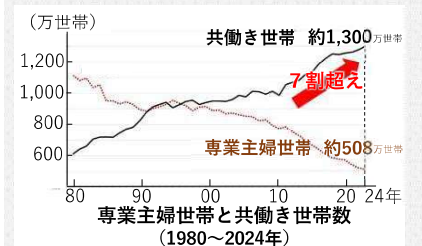
忙しい共働き世帯や住まいの近くで働く人の増加
公共交通をよく利用する若い世代の増加

暮らす場所として
生活と交通の利便性を重視するニーズ

●若者の公共交通分担割合が増加に転じる (2000年以降)



●共働き世帯の増加 (2010年以降)



●テレワークの普及や多様な働き方・住まい方の広まり (2020年以降)

モノレール沿線のまちづくり

ま ち

- ✓ 現在の生活様式及びニーズに合った魅力と特徴のある新たな機能の集積



交 通

- ✓ 拠点性とまちの特徴を活かした公共交通の再構築



- モノレール沿線の魅力向上
- まちと交通が連携する成功事例



- 定時性・速達性に優れる大量輸送機関



- 全国で多くの都市再生の実績
- モノレール沿線に多くの賃貸住宅



- ニーズに合ったきめ細かな輸送機関

次の時代 を担う 若い人たちに 選ばれる
未来を見据えたまちづくり を 目指す



徳力公団前駅周辺 に着目

徳力公団前駅周辺からモノレール沿線の価値を向上

まち

大規模団地が存在しており、モノレール駅のなかで比較的駅勢圏に人口が多い

→機能集積による効果が期待できる

交通

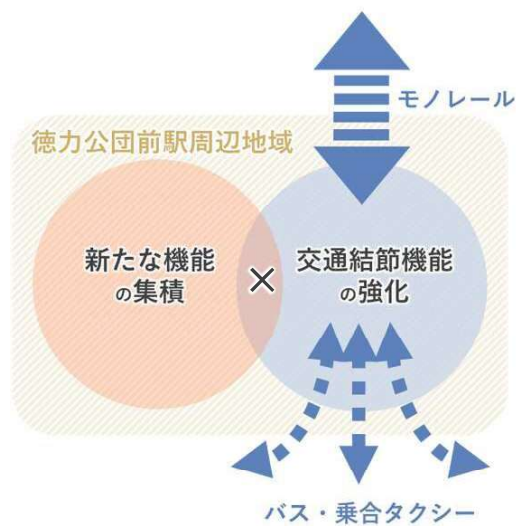
小倉駅から一定の距離があり、東西南方面からの路線バスがモノレール駅にアクセスしやすい

→郊外部の交通拠点とすることで、
公共交通再構築による効果が期待できる



高いポテンシャルを活かして、
現代・未来のライフスタイルに合った地域拠点の形成

まちづくりのイメージ



「まち」と「交通」を 未来志向 でアップデート